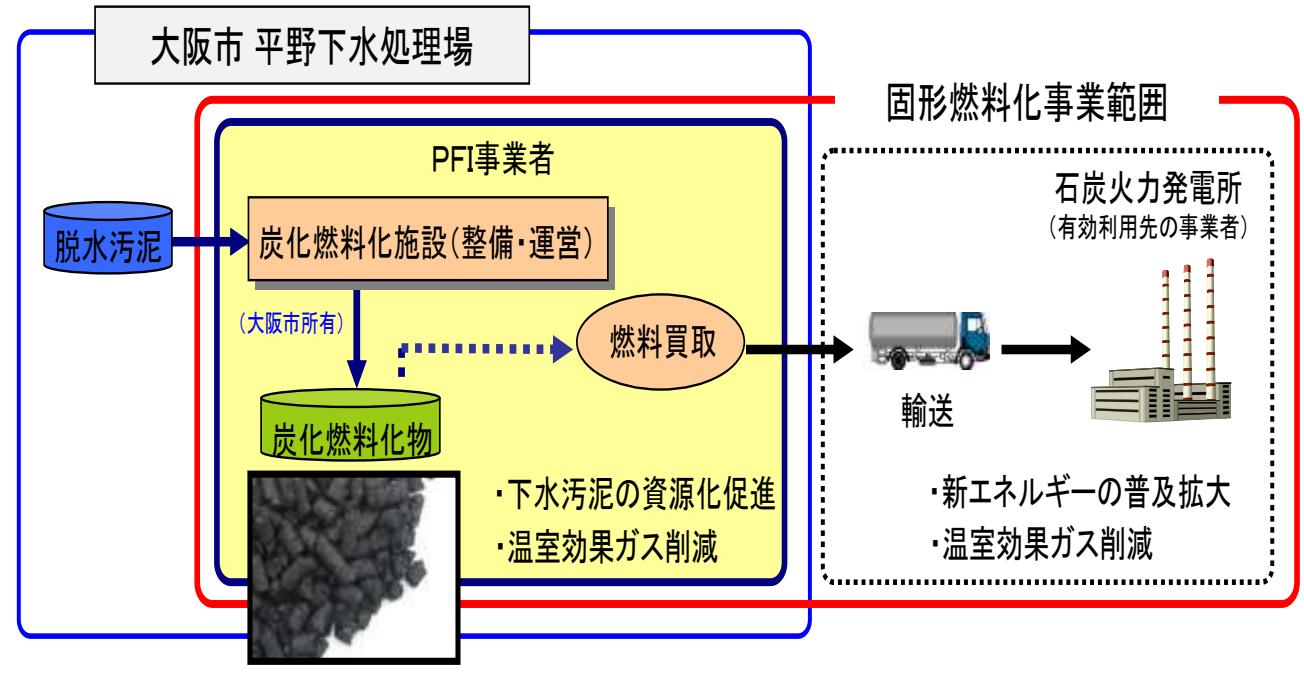


○ 消化ガス発電
 既存の消化ガスエンジン発電設備について(PFI事業)、効率的な運用をすることで電力量を削減する。



○ 汚泥の固形燃料化
 下水汚泥を固形燃料化し、火力発電所における石炭代替燃料として有効利用

○ 省エネルギー設備の導入や施設の効率運転
 ・水処理設備での省電力機器の採用 (ブローア、攪拌機、汚泥かき寄せ機等)
 ・汚泥処理設備での省電力機器の採用 (機械濃縮機等)

大阪市の下水道に関する地球温暖化防止のための取組

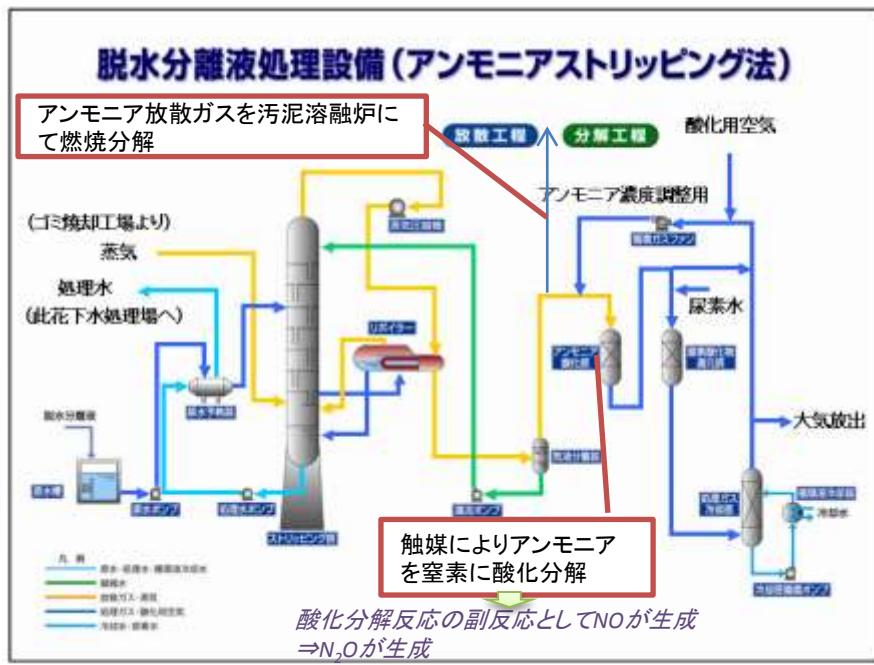
全削減見込量 約 -37千t
 ※新施設稼働に伴う排出量増加分考慮(約3,675t)

省エネルギー化の推進
 削減量 -5,401 t

汚泥の固形燃料化
 削減量 -1,500 t

新エネルギーの推進
 削減量 -18 t

脱水分離液処理施設
 削減量 -34,200 t
 N₂Oの温室効果ガスはCO₂の310倍であるため、地球温暖化防止のためには、N₂Oの削減が必要



汚泥を脱水して生じる分離液には高濃度のアンモニア性窒素を含んでいるため、脱水分離液処理施設を用いて窒素濃度を低減させていた。

処理の途中で副反応としてN₂O生成

- 【対応策】
- ①酸化触媒をN₂O対策改良触媒に変更
 - ②アンモニア放散ガスを汚泥溶融炉にて燃焼分解

N₂O削減へ



太陽光発電

